



ふれあい通信

六月史跡ウォーク中止

六月二十日実施予定の歴史ウォーク「明智光秀と坂本城址：西近江路を歩く」は**下見も含め中止**することにしました。

六月のウォークについては、実施する方向で準備を進めてまいりましたが、今般、政府による『緊急事態宣言』を六月二十日迄再延長することに決定されたため、緊急事態中は実施しないという当協会の基本方針により、中止のやむなきに至りました。

緊急事態とはいえ、昨年より度々中断が続いたことは大変残念な事と思いますが、この状況ご推察のうえ何卒ご理解とご協力をお願い申し上げます。

会員・賛助会員の皆様には大変な時期ですが感染に十分ご留意いただき、ご協力をお願い申し上げます。なお、ご意見など提案がありましたらメール等で山田までご送付ください。

七、八月の史跡ウォークは恒例により、お休みをいただきますが、九月より、左記の通り再開したいと思っております。

★第一七六回史跡ウォーク 九月一九日（日）

「明智光秀と坂本城址：西近江路を歩く」

築城四五〇年の坂本城跡、光秀ゆかりの地と伝教大師千二百回忌を偲び坂本の里を訪ねます。

日時 九月一九日（日）受付九時～九時半
集合 京阪石坂線 坂本比叡山口駅前

京都史跡ガイド
ボランティア協会
会長 山田久男
編集 澤田 卓



★第一七七回史跡ウォーク 十月一七日（日）
受付場所・京阪京津線「大谷駅」で検討中
最後に、史跡ウォークに替わる 会員・賛助会員合同の歴史探訪（京都外）を計画しました。最終頁「お知らせ」欄に実施案内を記載し参加者を募集しています。多くの方のご参加をお待ちしております。



視覚障害者のガイド

チーム雅 今井 満

視覚障害を持つ男性と足が少し不自由な女性の史跡ガイドを、4月の中旬行った。

お二人は愛知県の方で、嵐山の『星のや』に宿泊されて京都観光をされた。朝一〇時の約束で渡月橋横の船待合所に行くと、背筋の通ったホテルマンが二階で待つように指示し、時間に大堰川を船が下って、タクシーで大覚寺・広沢池・龍安寺・仁和寺を廻り終ってホテルに電話すると船が迎えに来た。

ここで特記だが、竜安寺は視覚障害用に箱庭が用意されているので、触ってもらおうとしたら、固めて無くて用をなさなかった。

気を付けたのは、段差で「あと何段です」など小まめな声掛けと、コロナ対策で食事は弁当を持参し別場所まで済ませた。

次の日 ホテルが予約した苔寺は、ガイドも拝観料三千円が必要で、払って貰い良い目の保養をした。同寺の写経は毛筆五百円が必要と云われ断る。あと鈴虫寺・松尾神社・大徳寺を廻った所で、体調を崩され大徳寺の式台に横たわれた時はオロオロしたが、最後に船待合で別れる時、また夏にお会いしたいと言われ、胸を撫でおろした。



苔寺・黄金池と三尊石

西芳寺（苔寺）拝観
拝観料 3000円
葉書による事前予約必要



「モナ・リザ」の謎

チーム雅 中川 誠樹

昨年七月、一週間入院していたとき、娘から「美しい生物学講義」（作者更科功）という本が届いた。なぜこんな本を、と思い帯書を見ると養老孟司ほか著名三人の推薦「めっちゃ面白い、高校生の頃に読みたかった」と。

一章「レオナルド・ダ・ヴィンチの生きている地球」で始まり、十九章まで生物の講義が続く。なぜ地球が生物かと思ひ読み進むと、ダ・ビンチは地球を生物と考え、多くの研究をしている。そして地球が生物であることを表現したのがモナリザと呼ばれている女性の絵と言う。面白いというより目から鱗だ。

ダ・ビンチは生涯に亘る研究を一万枚にも及ぶ手稿（ドローイング含む）に残している。ダ・ビンチが「万能の天才」と言われるのは、この手稿に残る研究分野の広さ、時代を先取りした万端の科学技術の評価からと言う。

更科功講師はダ・ビンチの手稿に自然科学の研究が多いことに注目している。幾つかあげると、「ノアの大洪水の実態（人類の横暴を神が怒り起こした洪水）」洪水を人災とした初見。「山上にある二枚貝の化石の謎」この研究が現在のプレート移動理論につながる。

ダ・ビンチは地球のあらゆる動き、現象、生物を観測する中で、地球は生きている（限りなく生物に近い）考えを強くした。

そして、生きている地球を表現したのが、モナリザと呼ばれている作品である。地球の生物の代表として、少し笑みを浮かべた美しい婦人、やや横を向き優しい。背景に、空、水を湛えた川、緑ゆたかな山、婦人の髪は川の流れに沿ってくねっている。美しい。「私、モナリザではないですよ」と声・・・

『驚き、桃の木、明治の記』③緒方洪庵

チーム葵 今川 博明

コロナ感染が世界中に拡がっていますが、感染症の大流行は百年毎にやってくると言われています。百年前はスペイン風邪、そして二百年前にはコレラだったのです。

今回はこのコレラの治療手引書を5日余りで書き上げ、無料で医師たちに配布した『緒方洪庵』についてです。彼が大阪に開いた「適塾」は今も大阪北浜に現存しています。彼は武士の子として生まれましたが、8歳の時に天然痘に罹り、身体も弱かったたので医師を目指したようです。この「適塾」には福沢諭吉、大村益次郎、大鳥圭介、橋本左内がいたのですが、誰一人医者になっていないのが面白いところなんです。

大村益次郎は村医者になったものの、長州藩から蘭学と西洋兵学を教えてほしいと頼まれ、明倫館の先生になります。そして戊辰戦争で大活躍することに。福沢諭吉はご存知の通り慶応義塾大学を設立。大鳥圭介は榎本武揚、土方歳三らと五稜郭で函館政権を立ち上げ、陸軍奉行として戦いました。橋本左内は福井藩主の松平春嶽の側近に登用されますが、一橋慶喜の擁立運動に介入したとして井伊直弼に目を付けられ、安政の大獄で斬首されてしまっています。

『緒方洪庵』の人柄は、とても温厚で人を怒ったことがなかった、と言われています。そのため塾生は「先生が微笑んだ時の方が怖い」と言い、緊張して授業を受けていたようです。

彼は、学問の前に人は平等であるとし、塾生を成績だけで序列化する完全な実力主義を貫いたそうです。最後は幕府の西洋医学所頭取となり、将軍徳川家茂の侍医も務めたそうです。

世界で大流行の新型コロナも、いずれ収まることでしょう。でも、直ぐにでも収束してもらいたいものです。

島津製作所のチャレンジの歴史

チーム雅 今井 満

図書館で『仏具とノーベル賞 京都・島津製作所創業伝』を読んだ。文中に京都にある老舗一四〇三社の中で「さん」付けで呼ばれるのは「大丸さん」と「島津さん」の二つに驚いた。

またタイトルにある仏具と島津の結びつきが良くわからなかったが、幕末に島津は西本願寺の近くで仏具職人をしていて、廃仏毀釈で仏像が捨てられ明治に商いが成り立たず、商売替えして今があつた事が分かった。

それには、琵琶湖疎水の電気など京都知事による殖産興業と科学技術の研究などを目的とした京都舎密局や勸業場が設立された事が大きい。そこに職人気質で学校もろくに出ていなかった島津源蔵・二代目源蔵は出入して新たな知識を身に付け、国産の医薬機器などを開発して「日本のエジソン」と呼ばれた。

日露戦争直前に島津源蔵は、それまでタブーとされた硝酸を用いて鉛を粉にして蓄電池の実用化に成功した。この蓄電池のお陰で東郷平八郎は「天気晴朗ナレド浪高シ」の電報が発信できた。また蓄電池は、島津源蔵に因んでGSバッテリーと呼ばれる。

更に島津源蔵は、イギリス製の電気自動車に蓄電池を積み込み、自宅と会社を通勤していたが、今から一二〇年も前の事である。他にはレントゲンやマネキンなどの製造を行っていた。それと島津の苗字と丸に十字の家紋は、島津家から下賜されたものである。

それとノーベル賞は、田中耕一氏でタンパク質の分析にタブーだったグリセリンを使つて成功した。島津源蔵と田中耕一は、誰もしなかった事にチャレンジし大きな発見をした。この本は、京都の新たな歴史を教えてくれる。

地味な京都のはなし

「洛陽三十三所霊場めぐり」のすすめ

チーム彩 奥西 不二

京都の寺々で時々みかける「洛陽三十三所霊場〇〇番札所」の札が気になっていました。ちようどコロナ禍で時間ができたので巡礼することを発願いたしました。

洛陽三十三所観音霊場巡礼は、後白河天皇が花山院の定めた西国三十三所霊場が遠方にあるので、それに代わるものとして都の中や近隣に霊場を定めたとされています。室町時代の半ばには行願寺にはじまり北野天満宮に終わるのが定着しました。

応仁の乱などで札所が廃絶して洛陽三十三所霊場巡礼は衰退していききました。

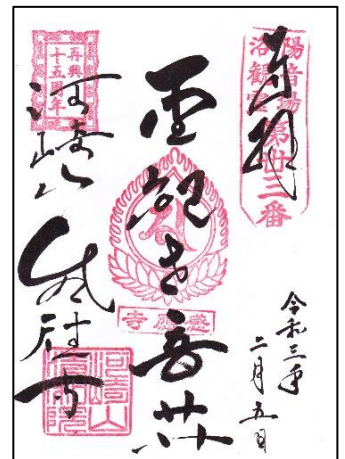
江戸時代に再び巡礼が行われます。寛文五年（一六六五）霊元天皇の勅命により中興され、六角堂にはじまり清和院に終わる三十三の札所が再興されました。その後は明治、大正、昭和の激動のなかでふたたび次第に衰退しました。

平成十五年にあらためて三十三の寺院が揃い再々興されるにいたりしました。現在は地元の方だけでなく手軽に巡礼ができることから全国から多くの巡拝の方が見えています。

(第一番 六角堂)



(第三十三番 清和院)



有名な観光寺院と呼ばれる札所もありますが、こんなところにこんなお寺が、と思わせる寺々が繁華な場所の隣にあつたりします。それぞれの由緒言われがあり、あらためて京都の歴史の重なるの分厚さや奥深さを思い知らされます。

三十三所霊場を巡礼し結願すると希望者には「先達証」と「袈裟」がいただけます。（申請書と発行料金が要りますが）

すでにご存じの方も多いかと存じますが、私は朱印をいただくので「朱印帖」と思っています。まず写経をしてお寺に納め、その証として朱印をいただくのが本来の姿のようです。今は納経の代わりに料金を納めることがほとんどです。清水寺の参道にある「経書堂」はその名残だそうです。

バスを乗り継いで往けば一日に四、五か所は可能です。集中すれば一週間ぐらいで巡ることができそうです。清水寺では一箇所の納経所で五つ朱印がいただけるのですが、普段は観光客の方など多くの人が押し寄せてなかなか大変です。今はコロナ禍の中で訪れる人もまばらでした。好機と思って巡ってみてはいかがでしょうか。いろいろな発見があり、また小さな達成感が得られます。

老いと学びの極意

チーム葵 澤田 卓

タレントの武田鉄矢氏が刊行されたエッセー本ですが、新聞の推薦枠に載っていて思わず購入しました。

氏は私より少し年長の団塊世代で、昭和四七年（大阪万博の二年後）に歌手デビュー、その後も映画やテレビのドラマに、ラジオのパースナリティにと活躍しており、どちらかというととニッチで気取らず、僅かながら田舎の匂いを感じるタレントのイメージを持つていたのですが、その世界でマルチに長年何でもこなす仕事ぶりには、その裏で絶え間ない努力を惜しまず、自己研鑽していることが垣間見える一冊でした。

高校時代に司馬遼太郎の「竜馬がゆく」に感化され、デビューしたグループ名が「海援隊」で、竜馬に関する本まで出しており、また、司馬氏へのインタビューから日露戦争でバルチック艦隊との日本海海戦において「本日は天気晴朗ナレド浪高シ」の打電の背景、果ては織田信長と藤吉郎が会おう日の尾張の天候を何年も調べて小説に描く姿勢に感動するなどただの俄かファンではなく司馬氏に傾倒しここまで来た様子が伺えます。

また、仕事柄影響を受けた人々、高倉健、なかにし礼、奥さんや哲学者の内田樹とのエピソードなど人柄が伺える記載が随所に散りばめられた内容でした。

幼少期は愚鈍の方で、小銭の入るタバコ屋の子供なので小銭を盗んで映画鑑賞、演技に陶酔する。意味のない偉人の辞典を丸暗記するなど、凡そ勉学とは関係ないことに費やした行為が、今となっては未来に備える行為だったとは。だから人生面白い。



元号の基本 (三)

チーム彩 矢野 正明

「災異改元」

日本に多い地震や噴火といった天災地異、疫病流行など凶事の発生により改元。

主なものを列記すると次のようになります。

- ★承平〳天慶（九三八年）地震と平将門の乱
- ★元暦〳文治（一一八五年）大地震・平家滅亡
- ★文禄〳慶長（二五九六年）慶長伏見大地震
- ★慶長〳元和（二六〇五年）豊臣滅亡・元和偃武
- ★明暦〳万治（二六五八年）明暦の大火
- ★元禄〳宝永（二七〇六年）元禄地震
- ★天明〳寛政（二七八九年）天明大火・内裏再建
- ★嘉永〳安政（二八五四年）ペリー来航・大地震
- ★安政〳万延（二八六〇年）桜田門外の変
- ★元治〳慶応（二八六五年）最後の災異改元
- *慶長地震、天明大火のように、前の元号の時に生じたものが多々あるので注意を要します。

「祥瑞改元」

元号が実際に使われたのは大宝律令（七〇一年）と言われ、「大宝」は対馬から金が献上されたこと、「和銅」は秩父から純銅が出たことに由来。また、「天平」は甲羅に「天王貴平知百年」と書かれた珍しい亀が見つかり改元されました。

「革年改元」

この改元は平安時代前半で途絶えました。六十年に一回やってくる十千十二支のうち、「甲子」「辛酉」両年には変革が起きるものと考えられ、平安時代に文書博士であった三善清行の建言により「昌泰」から「延喜」（九〇一年・辛酉）への改元が行われたことが端緒として、革年改元は幕末まで行われました。

「甲子」は戦国時代の一回だけが抜けて、後は元治元年（一八六四年）まで続きます。

江戸時代だけを見ると一六二四年の「寛永」後は、六十年毎に「貞享」「延享」「文化」「元治」となり、その各三年前の「辛酉」年には一六二一年以外は必ず、改元されています。

幕末動乱期、孝明天皇在中には、六度（嘉永・安政・万延・文久・元治・慶応）も改元されており。

一八六一年の万延元年は辛酉年で、三年後の一八六四年の文久は甲子年となり、「革年改元」により、元号がそれぞれ変わることは決まっていました。つまり、文久は三年の運命。万延はわずか一年で文久にバトンタッチすることになっていたにもかかわらず、安政を万延に改元したのは、余程、幕府にとって井伊大老暗殺事件がショックだったのでしょうか。

「十千十二支」と「革年改革」を勉強すると、さらに日本史が面白くなると思います。

お知らせ

会員・賛助会員の研修 六月二七日(日)

天理駅前東側九時三〇分集合

「古代の倭に触れる」をテーマに山野辺の道

を中心に歩き、見聞を広めましょう。

・締め切り六月二〇日まで

・参加者は、名前・住所・電話(携帯は◎)記載

FAX・メール・葉書(電話はX)で申込み

・申込先住所 山田久男 宛

・TEL 607-8022 京都市山科区四ノ宮小金塚 1-20

・FAX 075-593-9387

・メール yamahisa70576@wave.plala.or.jp

・問合せ ☎ 080-3038-4479

・交通費・昼食・飲食代・雨具などはご負担願います

懐かしい会員

チーム雅 山田 久男

協会が発足して今年で二十三年を迎えます。その間に多くの会員が入会され退会されて行きました。その数は百人以上となるでしょう。皆様方の中でも記憶に残っておられる方もあると思います。

今回ご紹介するのは発足時に入会されていた「谷文雄様」です。憶えてられる会員の方ももう数名くらいだと思います。先日久しぶりにお会いし、過日の思い出など、当時の方々の事を中心に話しがはずみ楽しいひと時でした。私が覚えてるのは軽妙な語り口と豊富な知識で参加者を引き付ける話術は、当時若輩の私には多いに参考になりました。

当時の役員方が多く亡く亡くされている中で元気で相変わらずの弁術鋭く年齢を感じさせないくらいでした。今回、賛助会員に加入頂きました。

現在は地元の深草にある「軍人地蔵」の保存に活躍されています。どうぞ何時までも元気で活躍されることをお祈り申し上げます。

